

CONTENTS

- ◇「食の安全・安心対策本部」設置……………2
14年度産米買入検査／ドラ・コン熊本大会
- ◇理事会・監事会報告……………3
- ◇観音ゲートボール・Gゴルフ大会……………4
辞令名簿
- ◇JA支所訪問「阿蘇町一の宮」……………5・6
- ◇JA阿蘇青壮年部研修会……………7
「ポイ捨て禁止と安全運転」呼かける
- ◇活躍中のホームヘルパーさん……………8
アグリフューチャー2002
- ◇小国郷畜産共進会／「朝どり市」好評……………9
- ◇「盟友の主張」最優秀賞……………10・11
- ◇種バレイショ、キャベツ出荷盛ん……………12
アスパラ栽培講習会／「郷の四季」新米まつり
- ◇“のむヨーグルト”に熊本県賞……………13
小国郷事業課研修会／小国ダイコン
「家庭菜園コンクール」
- ◇「農業空容器処理」についてのお知らせ……………14
- ◇「無登録農薬」についてのお知らせ……………15・16



天高く深まる秋色



さらに**食の安全性を強化** 「**食の安全・安心対策本部**」を設置

本部長に丸山信義組合長

これまでJA阿蘇では、安全で安心な農畜産物を消費者に提供するため生産者とともに努力してきました。ところが、食品の偽装表示や中国産野菜の残留農薬、さらに無登録農薬問題など「食の安全性」が問われる一連の出来事が起こり、今日、国民的な関心事となっています。特に、食の安全性を無視した無登録農薬問題は産地を崩壊の危機

にさらすものです。そこで、JA阿蘇では県下JAグループにおける一斉運動に連動し「JA阿蘇食の安全・安心対策本部」（本部長＝丸山信義組合長）を営農部に設置し、管内における農薬の適正使用の指導など農畜産物の“安全性”への取り組みをさらに強化することになりました。

作柄＝**平年並で良好** 14年度産米**買い入れ検査**

平成14年度産米買い入れ検査が、9月上旬から10月中旬まで行われています。食糧事務所小里倉庫ではJA職員立ち会いのもと、検査官が持ち込まれる新米の粒の形や水分含有量、害虫の被害などを肉眼や計器などを用い入念にチェックしていました。

今年の作柄には高温障害やカメムシの発生等が若干見られたそうですが、ほぼ平年並で良好という結果となっています。



写真右から戸田・藤川・宮崎選手

ドラ・コン熊本大会 JA阿蘇から 宮崎・藤川・戸田選手出場

「JA-SS職員の接客・点検・技術サービスの向上を図るとともに、経営の強化に努めよう」と、第25回JA-SSドライブウェイサービスコンテスト熊本大会が9月1日、JA菊池パシオンSS（旭志村）で開催されました。JA阿蘇からは基本コースの部に宮崎勝久（黒川SS）選手と藤川平政（白水SS）選手が、油外コースの部に戸田敦夫（一の宮SS）選手が出場しました。

競技の結果、戸田選手が優良賞、宮崎選手が技術サービス賞、藤川選手が敢闘賞を受賞しました。

ゼンケン10番・宮崎選手の競技



理事会・監事会報告

平成14年8月から9月までの間、理事会・監事会が下記の通り開催されましたので、そのご報告をいたします。

■第4回理事会

開催日時 平成14年8月29日午後1時30分

開催場所 阿蘇町東部支所2階会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 事業実績報告（7月末）
4. 協議事項
 - (1) 理事会今後の日程について
 - (2) 資産査定に伴う引当金の確認について
 - (3) 貸出金について
 - (4) JAマイカーローンキャンペーンについて
 - (5) 農機具ローンの新設について
 - (6) 職制規程の改正について
 - (7) 公用印管理規程の改正について
 - (8) 貸出金業務規程の改正について
 - (9) 出資減口について
 - (10) 平成15年度職員採用について
 - (11) 低温殺菌牛乳の製造に伴う施設のリース契約について
 - (12) ハウスリース事業について
 - (13) 無登録農業について
 - (14) 畜産近代化リース事業について
 - (15) 南部購買集約店舗建設について
 - (16) その他

■第4回監事会

開催日時 平成14年9月13日午後1時30分

開催場所 本所2階会議室

1. 開会
2. 常勤監事挨拶
3. 議題
 - (1) 上半期仮決算棚卸予備監査日程及び実査場所の人員配置（案）について
 - (2) 事務監事監査日程（案）について
 - (3) 県条例検査立ち会いについて
 - (4) その他
4. 閉会
5. 研修会
 - (1) 平成14年度上半期仮決算要領及び書き抜き様式集について
 - (2) 平成14年度上半期棚卸予備監査実施要領について
 - (3) 監査手続き調書について
 - (4) 監事監査取りまとめ調書について
 - (5) その他

■第5回理事会

開催日時 平成14年9月24日午後1時30分

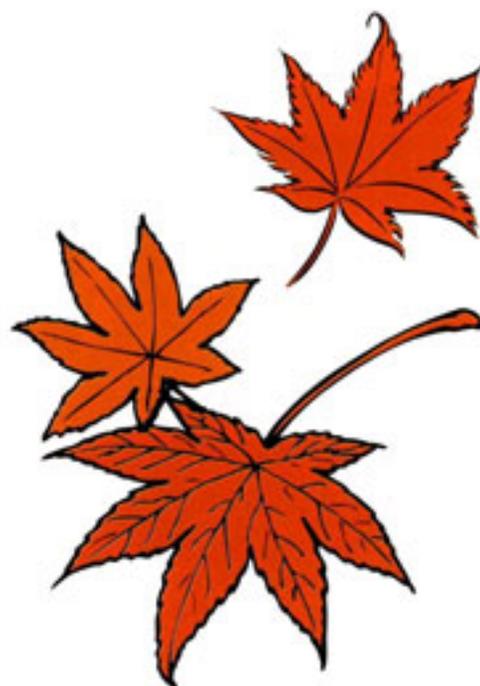
開催場所 阿蘇町東部支所2階会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 事業実績報告（8月末）
4. 協議事項
 - (1) 貸付金の金利改正について
 - (2) 店舗移管について
 - (3) 畜産近代化リース事業について
 - (4) 貸付金について
 - (5) その他

報告事項 熊本県検査実施に伴う日程について

報告事項 平成14年産米仮渡金について

報告事項 JA阿蘇「食の安全・安心対策本部」設置要領について



JA支所訪問 (第5回)

JA阿蘇の各支所や施設を紹介する「JA支所訪問」。今回は「阿蘇町・一の宮」(順不同)の2支所です。

阿蘇町中央支所

阿蘇町内牧294 ☎0967-32-4411



■県下でも有数の穀倉地帯

阿蘇町中央支所(内牧支所)(藤田和美支所長・職員14名)がある阿蘇町は、火の国熊本のシンボルである阿蘇山を擁し、阿蘇くじゅう国立公園の主要拠点地として発展してきた名実ともに九州を代表する観光地です。また、内牧温泉は100年以上もの歴史を持つ温泉地としても有名です。

耕地は阿蘇山と外輪山に囲まれた阿蘇谷に広がり、町の中央部を東西に黒川が流れ、これと並行するようにJR豊肥本線と国道57号が走り、57号から分かれて国道212号が大観峰を経て小国方面へと延びています。

組合員数は正が1,623名、准が200名(通常総代会資料による)で、専業農家の割合が他地域より多いのが特徴です。主要作物としてはコシヒカリを主とした稲作が半分を占め、県下でも有数の穀倉地帯となっています。次いでトマト、イチゴ等のハウス栽培、畜産、大豆栽培等となっています。

阿蘇町中央支所管内には、東部地区に阿蘇町東部支所、西部地区に尾ヶ石支所、西南部地区に永水支所があります。また黒川地区に阿蘇町農機・車輛センターが、隣接して同敷地内に生産資材を



阿蘇町東部支所



尾ヶ石支所



永水支所

取り扱っているグリーンショップやまびこ、阿蘇町共同集出荷所があり、狩尾地区にはカントリーエレベーターが立地しています。

■後継者育成システムが必要

藤田支所長は「阿蘇は昔から観光の拠点として発展してきたが、昨今では観光客が通過することが多くなっている。平成11年4月に「はな阿蘇美」がオープンしたが、農業と観光を結び付けたイベントなど町役場とも一緒になって考えていきたい。課題としては後継者や高齢化の問題があるが、何か後継者を育てるための有効なシステムづくりが必要だと思う。農産加工品についてはJA女性部が大変頑張っておられる」と語っていました。



阿蘇町中央支所の皆さん

一の宮中央支所

一の宮町宮地387-5 ☎0967-22-1321



一の宮中央支所がある建物（左）とJAグリーン一の宮



一の宮中央支所内

■歴史と伝統に育まれた農耕の地

一の宮中央支所（坂本光信支所長・職員10名）がある一の宮町は、古代から阿蘇地方の中心地として営々と耕作が行われてきました。中でも清冽な水と肥沃な耕地に恵まれていたことから“うまい米”が作られてきました。今日でも阿蘇神社や国造神社にはその長い歴史と伝統を物語るように数多くの農耕祭事が伝わっています。

農耕地は主に阿蘇盆地平坦部に広がり、その南寄り国道57号とJR豊肥本線が東西に走り、57号から北外輪方面へと九州横断道路が伸びています。

基幹となる農作物は稲作、園芸（トマト・イチゴ・アスパラガス）などと畜産となっています。

一の宮中央支所はJA阿蘇本所と同施設内にあり、管内の組合員数は正が1,167名、准が103名（通常総代会資料による）となっています。一の宮中央支所には4支所（宮地支所・坂梨支所・古城支所・中通支所）があります。また一の宮中央支所の関連施設として、農機センター、車輛センター、給油所、JAグリーン一の宮、野菜集出荷場、農作物直売所、特産物直売所（あぜり庵）などがあります。尚、4支所は来春、新築される一の宮中央支所に統合される予定となっています。

■効率化をはかり、より充実したサービス提供に努めたい

坂本支所長は「来春の中央支所新築を機に4支所（宮地支所・坂梨支所・古城支所・中通支所）が統合されるので、これまで以上に効率化をはかり、より充実したサービスを組合員の方々に提供できるように更なる努力をしたい。同様に金融や共済部門においてもサービス向上に努めたい。アゼリア21の施設内にある特産物直売所とレストラン「あぜり庵」は、訪れる観光客の反応も好評であるので喜んでいる。BSEの影響はどうやら落ち着きつつあるが、課題と言えばやはり高齢化と後継者対策である。この問題は決して一の宮だけの問題ではないが、JAとして、JAが持てる機能や役割を十二分に発揮できるようなことを今後とも続けていくことが大切と思っている」と話していました。



宮地支所

坂梨支所



古城支所



中通支所



特産物直売所とあぜり庵

「盟友の主張発表大会」と 「看板コンクール」実施

第27回 J A 阿蘇青壮年部研修会



井手部長から表彰を受ける田島さん

「第27回 J A 阿蘇青壮年部研修会」ならびに「平成14年度手づくり看板コンクール」が10月9日午後1時から、阿蘇町の農村環境改善センターで盟友および J A 関係者90余名が出席して行われました。

先ず、統一綱領を全員で唱和した後、主催者を代表して井手孝義青壮年部長が「新規就農者の減少や高齢化が進み、農業生産力の低下が懸念されている。また農業の国際化や規制緩和による農畜産物の輸入量が急増し、かつて経験したことのない環境変化に見舞われている。このような中、地域農業のリーダーである J A 青壮年部盟友は自らが将来を見通した自立農業経営の確立と、明るく豊かな地域社会づくりを目指すために相互研鑽を行い、青壮年部組織のさらなる発展を期さなければならぬ」と挨拶し、来賓の中尾雄二副組合長も「青壮年部の益々の活躍と発展を祈念します」と祝辞を述べました。

引き続き「盟友の主張発表大会」に移り、各支部代表の6名の盟友がそれぞれ熱弁をふるいました。

主張発表後、県中央会営農農政部の田尻恒憲部

長が「青壮年部における今後の農政運動について」という演題で講演を行いました。その後、主張の講評と結果発表、「農業・農村の素晴らしさをアピールする」をテーマに作成された看板コンクールの審査発表が行われ、主張の最優秀賞には一の宮支部の田島重成さんの「じいちゃん金貸して」(本誌10ページに全文掲載)が、看板コンクールの最優秀賞2点には一の宮坂梨支部と一の宮中通支部の作品(本号の表紙に掲載)が選ばれ、熊本県コンクールに出展されることになりました。

なお「盟友の主張発表者」は次の通り。(敬称略)

- 岩見 暢靖 (小国郷)「私の思った事」
- 田中 歩 (阿蘇町)「今を生きる」
- 田島 重成 (一の宮)「じいちゃん金貸して」
- 興梠 龍一 (蘇 陽)「青壮年部でやってみたいこと」
- 今村 孝典 (久木野)「インターネット利用の農業を目指して」
- 後藤 光浩 (白 水)「農業を愛して」

J A 青壮年部 「ホイ捨て禁止と安全運転」 呼びかける

農村環境美化運動と秋の交通安全運転に協賛して9月25日、J A 阿蘇青壮年部盟友20名が一の宮警察署近くの道路沿いで、空きカン・空きビン投げ捨て防止と交通安全を願い、ドライバーにチラシと小国ジャージー牛乳やジュージーの配布を行いました。



「身体介護」や「家事援助」に
活躍中のホームヘルパーさん
＝ JA阿蘇小国郷中央支所＝

平成12年4月から始まった「介護保険制度」は、痴呆や寝たきりなどで介護が必要な高齢者を家族等に代わって、社会保険の制度に従って社会全体で支えようということでスタートしました。

現在、小国郷営農センター「生活福祉課」には介護が必要な人を直接自宅に訪問して、介護を行うホームヘルパー（訪問介護員）の資格を持つスタッフが28人登録され、「介護サービスステーション阿蘇小国郷」のもと、訪問介護のお世話をしています。

介護サービス利用者は小国郷で30人余りとなっており、その内訳は身体介護（岳の湯温泉のバリアフリー浴槽で入浴を手伝うことや通院での送り迎えなど）と、家事援助（JAの食材を活かした食事作り・掃除・洗濯・買い物など）が主です。

しかし、利用者にとってはホームヘルパーとはいえ他人が家の中に入り込んでいろいろと世話をしてくれることへの抵抗意識があり、介護保険制度の理解と、利用者と介護を行う関係者とのより一層の信頼関係づくりと、コミュニケーションの充実が求められています。

「必要なときは、気軽に利用して！」
最初の抵抗感も、身内みたいな感じに

介護ステーション管理者の梅木利子さんは、「以前からJA女性部には“たすけあいの会”があり、福祉活動も積極的に行っていました。確かに初めて訪問介護を利用される方には抵抗感や途惑いがあるかと思いますが、お互いにふれあううちに、今では身内みたいな感じがすると言われる方が多くなりました。小国郷も過疎化が進み、地形的に僻地が多く公共交通機関も不便であり、高齢化率は約30%（65歳以上人口が町の総人口に占める割合）でひとり暮らしの高齢者も多いことが特徴です。その分、ヘルパーさんがあちこち車でフルに走り回らなければならない状況ですが、スタッフ全員が頑張っています。

今後の課題としては、JA独自でケアマネージャー（介護支援専門員＝介護サービスの計画「ケ



活躍中のホームヘルパーの皆さん

アプラン」を作ったり、市町村からの委託で要介護認定のための訪問調査などを行う人）が必要になるかと思えます。さらに、役場や関係事業所とも一致協力しながら福祉の充実に向上に取り組んでいきたいと思えます。必要な時は、お気軽にJAの訪問介護を利用してください」と話していました。

アグリフューチャー 2002

多様な農機・自動車・生産資材を展示・販売

農業機械や自動車など一堂に展示販売する「第39回農機・自動車実演大展示会」が8月22日から24日まで、合志町の県農業公園カントリーパークで開かれました。会場には関連メーカー約100社が大型農機や中古農機・自動車・生産資材など1万8,000点もの様々な製品を出展し、実演も行いました。期間中は多くの入場者でにぎわいを見せました。



平成14年度 J A阿蘇小国郷畜産共進会

高村祝裕さんほか9部門の
各優秀賞に「ブルーリボン」



表彰式で各優秀賞授賞を前に祝辞を述べる
J A阿蘇後藤安弘常務

平成14年度「小国郷畜産共進会」が9月10日、小国家畜市場で開かれました。共進会には小国郷9地区から肉用種牛（子牛・育成牛・経産牛）、肉牛（素牛・肥育）、乳用種牛（育成牛・経産牛）の計101頭が出品されました。審査（予備・比較）は県草地畜産研究所清島和生所長を審査委員長に畜産関係者ら10名によって、一般外貌（発育状態・体積均称・資質品位・体色）や躯体のつくり（肩・胸・腹・尻）等について行われました。

審査の結果、次の名号（所有者）に晴れのブルーリボンが贈呈されました。

- | | | | |
|----|------------|-----------------------|---------|
| 1部 | 子牛の部 | ふくしげ | (佐藤 友美) |
| 2部 | 育成牛の部 | さくら | (原山 寅雄) |
| 3部 | 経産牛の部 | まるなみ | (岩本 新一) |
| 4部 | 素牛の部 | 寿61 | (村上 秀訓) |
| 5部 | 肥育牛の部 | 菊春 | (秋吉 克幸) |
| 6部 | ジャージー育成牛の部 | ハイバレッチ350
サターン フタゴ | (高村 祝裕) |
| 7部 | ジャージー育成牛の部 | ハイバレッチ346
サターン | (高村 祝裕) |
| 8部 | ジャージー経産牛の部 | ノースウエストヒル224
リメイク | (高村喜久男) |
| 9部 | ジャージー経産牛の部 | エムエス114 サターン | (杉本 正雄) |

前年度より142%増の売り上げ

小国郷「朝どり市全体会集会」で
新鮮で安心・安全な出品物を確約

小国郷の直販店「朝どり市」の全体会集会が9月3日、朝市部会員約220名が出席して小国郷中央支所情報企画センターで行われました。

大塚営農センター長の挨拶後、朝どり市の実績報告、朝どり市の運営方針、朝どり市増設に伴う運営等について協議が行われました。

協議の結果、「朝どり市は新鮮さが基本であり、野菜や加工品の鮮度保持に努めること」「安心・安全を理念に減農薬・無農薬に努め、農産物の安全使用を守る」ことなど全員一致で確約しました。

また、集会では県普及センター金子技術長が「農産物の安全使用について」というタイトルで講演を行いました。

なお、「朝どり市」の販売額は年々増加しており、前年度は5,400万円の販売高がありました。ちなみに今年8月末時点で前年同月比142%の売り上げ増となっており、部門別売り上げベスト5は、果菜類、加工品類、乳製品類、その他、花卉類の順となっています。このような売り上げ増の背景には、朝市部会員の日頃の積極的な取り組みに加え、地産地消推進による地元旅館の購買増や観光客の増加などに要因があるとみられています。



9月に増築された「朝どり市」店舗

じいちゃん 金貸して

J A 阿蘇青壮年部一の宮支部 田島 重成

「じいちゃん金貸して、ちょっと彼女ん所に行って来るけん。朝には帰ってくる」今から4年前の私の口癖です。このとき我が家の経営内容は、稲作 2.5ha、繁殖牛8頭でした。私は、農林水産省農業者大学校へ進み、専門的な勉強をして来ました。阿蘇という土地と私が、畜産が好きということもあり、繁殖牛経営を夢見て就農しました。卒業前から牛については、父と相談していましたので、我が家では増頭しながら、家族も心待ちに卒業を待っていてくれました。

私の就農をきっかけに、父も繁殖牛に力を入れ、赤牛一筋で経営していた中に、黒牛の導入や、早期離乳の実施、受精卵移植などの新技術にも挑戦し、黒牛の買い付けにいたっては、鹿児島、宮崎などに、いい母体を求めて出かけて行きました。

牛も少しづつ増え畜産に占める時間が長くなると、自分の技術、また情報の未熟さに気づき、そこで同じ思いを持つ畜産をしている、若い仲間たちと、高岳会という部会を結成し技術及び経営面にと学びました。しかし、子牛価格の低迷や口蹄疫の影響で、繁殖牛中心の経営は、思っていたほど楽なものではありませんでした。そこで、この経営を見直すために、家族で話し合い労働力や、収入面を考えた結果、ハウスリース事業等を利用し、イチゴ栽培を始めようと決意しました。

イチゴ栽培に関しては、大学時代時代の研修で学んでいた事もあり、作業面は私が受け持つ事になりました。ちょうどそのころ、結婚しようと考えていた女性がいましたので、家族に相談すると、結婚後二人の自立の為に作業面だけではなく、イチゴ経営全体をまかせてくれる事になりました。繁殖牛に未練はありましたが、結婚したい気持ちには勝てず、父もまだまだ現役ですから、畜産は父にたより、私は、畜産及び稲作を勉強しながら、イチゴ栽培を軌道に乗せるために、努力しようと考えました。

経営を任せてもらえるというのは、一つの大きな目標でした。なぜ別経営にこだわるか？と言いますと、父も若い時に祖父が営んでいた稲作、繁殖牛とは別に、養豚経営を始め私をここまでしてくれたからです。チャンスを与えてくれた父、母には大変感謝しています。父に追いつき、追い越したいと思うのは、男だったら誰でも持ってる夢だと思います。こうしていろんなハードルを乗り越え無事結婚をすることが出来ました。

現在、我が家の経営状況は稲作3ha、繁殖牛15頭、イチゴ26aと増え、私はもっかイチゴの栽培管理、経営向上に向けがんばっています。又、今年から、試験的に観光イチゴ狩りを試みて見ました。これが消費者の生の声が直接聞けて、大変勉強になっています。来園したお客さんが安心して気持ちよく食べてもらえるようにと、開園1ヶ月前から圃場の万全な整備と、農薬の散布は一切しませんでした。

しかし、「わ～虫がおる」「これ力ビじゃないと?」など、厳しい声ばかりでした。1ヶ月前から農薬を使っていないと説明し入園してもらうと、今度は「農薬ば使うとらんなら安心たい」とか、食べた人は「おいしか〜!!」の一言、中には、お土産に数多く持ち帰る家族連れや発送をたのむ人などがたくさんいました。ありがたい事です。自分の作った物を美味しいと食べてもらえるのは、うれしいし、大変励みにもなり、「来年もがんばってもっといい物を作るぞ」という気持ちにさせてもらいました。面倒

くさがっていやいや店番していた妻も「目の前で美味しいって言ってもらうと気分いいね」などといい農業の一つの楽しみに目覚めたようでした。消費者、生産者が互いの言い分ばかりではなく、定期的にも、意見の交換が出来る場を持てば、今後の経営にも役立つと思いますし、今問題のBSEや、無登録農薬問題、又これから先に起りえる問題等にも、早期発見や解決につながっていかれると思います。甘いかもしれませんが、一つの手段だと考えています。

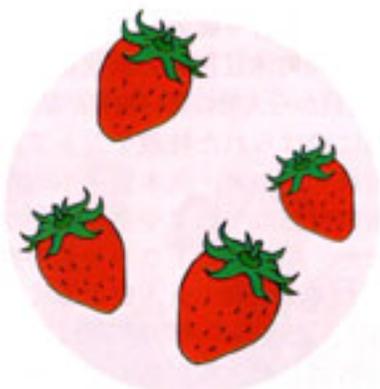
ここで、一つのお願いです、本日お集まりの盟友のみなさん、又各関係機関の皆様、消費者の直の声が聞こえる様に、今の流通体系の見直しをして行こうではありませんか。私は、消費者の声を聞いたことにより、新しく取り組み始めた事があります。JA指導員や普及所の先生方に教えていただきながら、農薬の散布を出来るだけ控え、代わりに微生物資材や自然にあるもので対応していこうというものです。これらの資材は農薬と違い、病害虫を薬剤で防除するのではなく、環境や人にやさしい栽培方法です。まだ取り組み始めたばかりで、結果は出ていませんが、これから先、必要な技術だと思い自分なりに模索しているところです。農薬については、色々な問題等でこの先使用が制限されてくると考えています。流通も今までの見た目重視の品物より、安全面にこだわった農産物が受け入れられてくると私なりに確信しています。

しかしながら、順調に進んでいると思っていた私自身、一番大切で重大な事を忘れていました。それに気づいたのは盟友のおかげでした。私は青壮年部員になって4年目です。入ったきっかけも地元の先輩に「お前も入っとけ、父親も入つとたけん、どうせ百姓するとやろが」と誘われて入りました。活動も何かのイベントがあるときに顔を出すぐらいで、青壮年部は何であるのか、なぜみんな一生懸命に活動しているか、考えた事ありませんでした。この主張をするに当たり、今の自分の考えを書いて、盟友に聞いてもらったのですが、まったく趣旨の外れた自分よがりの考えと指摘され、よく相談相手になってもらっている先輩にも、「お前はそういう事じゃいかんぞ」といわれ、本当に落ち込みました。自分を見つめなおしてみると、経営を任されたことで一人前になったと思い、家族や周りの人に助けられているのも忘れ、自分一人でも何でも出来るという自己中心的な考えでいました。気づいた時には、どうしようもないくらい恥ずかしかったです。でも、嬉しくもありました。

「僕は一人じゃない、周りにはこんなに素晴らしい家族、盟友がいる」と忘れていた事を思い出させてくれました。私が考えていた青壮年部というのはJAの下部組織としての活動や仲間作りだけだと思っていました。しかし、それだけではなく、目に見えない所がありました。精神面でのつながりです。みんなが互いに支え合い、助け合いながら活動している、その一番単純で、なかなか忘れがちな所を大切にしていきたいです。又、社交性の少ない農業にとっては、素晴らしい組織だと感じています。

最後になりますが、将来父から経営を引継ぎ、稲作、畜産、園芸の三つを柱にし、私と妻に、新しくめばえた夢でもある、地産地消を生かした農家レストランを家族で楽しく経営できたら最高だと思っています。レストランのテーマに考えている言葉「安全、安心をモットーに阿蘇の大自然をいかした農産物」を自分自身のテーマに置き、忘れてはならない家族、盟友の助けを力に早く実現出来ればと考えています。もう一つ、一日も早くやらにゃいけん事があります。「じいちゃん、儲かったけん金返すばい!!」と早く言いたいです。

私は思います。今の日本の農業は、さまざまな問題を抱え、厳しい状況にあります。そこで皆さん、今の自分達の農業を見つめ直し、盟友の力で、この阿蘇から、いままで以上に活性化させていこうではありませんか。



波野村

種バレイショ、
キャベツの出荷盛ん



波野村種馬鈴薯選別施設では8月から10月まで、種バレイショ（デジマ、ニシユタカ）の出荷が盛んに行われています。出荷先は鹿児島や沖縄で、出荷量は700t、販売高は8,000万円となっています。波野村における種バレイショ栽培は40年ほど前から始まり、現在、生産農家39戸で計45haで栽培されています。尚、大きいものは食用として出荷されます。

一方、波野村では高冷地としてキャベツ栽培も盛んに行われています。野菜集出荷予冷施設では6月中旬から11月、12月にかけて（ピーク時は7月）一般食用となるキャベツ出荷が行われています。現在、生産農家は26戸で70haで栽培を行い計3,000tが生産され、生産高は約2億円となっています。出荷先は福岡や熊本が主となっています。

アスパラ栽培講習会

施肥・灌水・病虫害防除などが大事

アスパラガス栽培講習会が9月3日、県普及センターから講師を迎え一の宮町野菜集荷所で行われました。講習では「施肥・灌水・病虫害発生防除などに心掛けることが、これからの春芽収量の増減に大きく関係してくる」と今後の管理についてのポイントが述べられました。その後、アスパラが栽培されているハウスに移動し、栽培の状況を観ながら具体的な管理方法についてのアドバイスが行われました。



「郷の四季」の新米まつり 大勢の買い物客つめがける

J A阿蘇直販店「郷の四季」の新米まつりが9月21日、合志町永江団地の同店舗で行われ、午前9時の開店前から大勢の買い物客が詰めかけました。

駐車場に設けられた特設テントでは、今秋収穫された阿蘇・一の宮・久木野・小国産の新米をはじめ、新鮮な朝取り野菜や農畜産物が即売されました。また、小国ソフトクリームや西原産からいも天ぶらの実演販売、久木野おふくろ館の豆腐・団子・万十、肥後赤牛肉の販売などもありました。新米購入客には購入量に応じて蘇陽産の栗1kgまたは500gがプレゼントされ、1回100円の栗つかみ取り大会も大好評で人だかりができていました。



J A阿蘇直販店

郷の四季

最高賞
熊本県賞

県農産物加工食品コンクール JA阿蘇小国郷の“のむヨーグルト”

平成14年度熊本県農産物加工食品コンクールで最高賞にあたる熊本県賞に、JA阿蘇小国郷の“のむヨーグルト”が選ばれました。このコンクールは地域の農産物を利用した加工食品の開発・促進を目的として実施されており、今年は県下JAや農産加工グループなどから40点が出品されていました。“のむヨーグルト”は来春、千葉市で行われる優良ふるさと食品中央コンクールに出品されます。

発想方法などテーマに研修会 小国郷営農センター事業課

小国郷営農センター事業課では9月4日、講師に大阪からブランド会社社長の末次忠吾氏を招き、職員約40名が参加して発想方法などをテーマにした研修会を開きました。この研修会を企画した石松雄平事業課長は「今夏、北海道の酪農組合等を視察した際、熊本は商品開発に対する取り組みや意識が10年以上も遅れていると感じた。そこで、今回の研修で学んだことが、例えば冬場の余乳活用策などのアイデア創出につながるのではないか」と研修の成果を語っていました。



講師の末次忠吾氏

小国ダイコンの出荷盛ん

小国郷では秋ダイコンの出荷が盛んに行われています。出荷先は主に福岡で、生産を始めて30周年を迎える今年度は販売高6億円を目指しています。



JA阿蘇女性部主催「家庭菜園コンクール」 最優秀賞に赤星恵美子さん（阿蘇町）



最優秀賞を授賞した赤星さん（写真左端）の菜園にはナス（4種類）・フキ・カボチャなど約35品目の野菜が栽培されていた。

平成14年度「JA阿蘇家庭菜園コンクール大会」（主催・JA阿蘇女性部）が9月3日に行われました。この菜園コンクールは、生活設計に基づく自給自足の暮らしを今一度見直し、自給率の向上と農家経営の安定や地域づくりに役立てることを目的として、JA阿蘇管内11支部ある中から推薦があった菜園を女性部、営農部、JA熊本県中央会の職員が巡回して審査に当たりました。審査では夏場の野菜が少ない時期にどれくらい作られているか、種類、発育・管理状況、栽培上の工夫点などが対象となり、その結果、最優秀賞に赤星恵美子さん（阿蘇町）、優秀賞には家入明子さん（一の宮町）・堀川チマ子さん（南小国町）・荒木シゲミさん（阿蘇町）・松岡トミエさん（白水村）の4人が選ばれました。

審査員の全員が「どの菜園も甲乙付けがたく、優劣がなかなか決められなかった。来年はもっと多くの応募を期待しています」と語っていました。



菜園での審査の様相

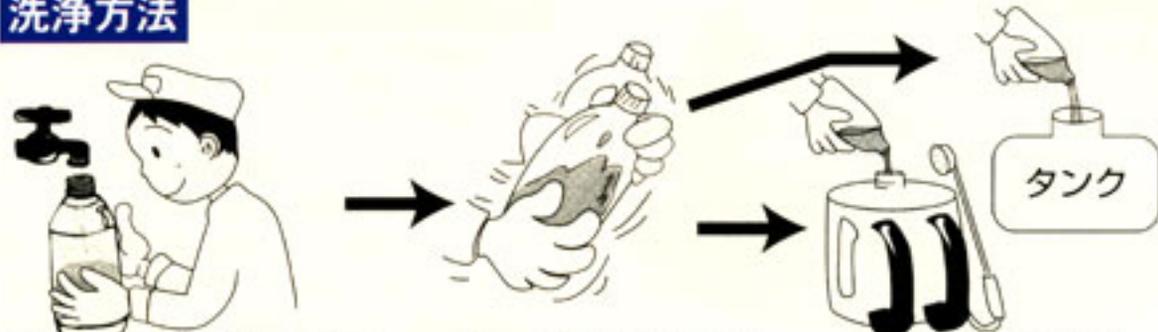


菜園巡回後の審査会

農薬空容器《産業廃棄物》 回収のお知らせ

使用済みの農薬容器の不法焼却・不法投棄は
法律により処罰されます。

洗浄方法



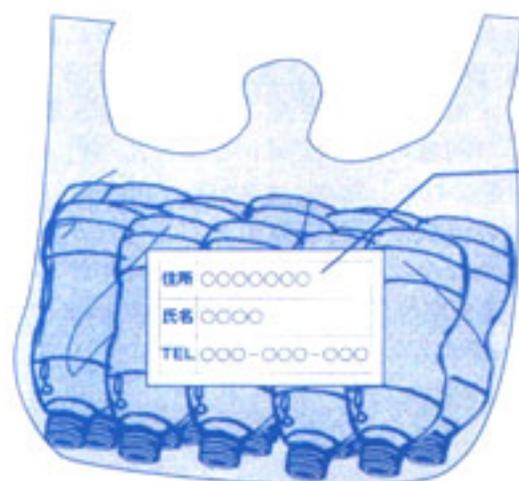
空容器に水を約1/4入れる。→ キャップをしてよく振る。→ 洗浄水はタンクの中へ。

3回くり返す

・散布器具の洗浄水は、河川、用水路、下水などの水系に捨てないで下さい。

回収方法

住所・氏名・電話番号はお忘れなく
ボトルはふたをはずして下向き
に約15本程度入ります。
紙袋、アルミ袋は中央部より切
断し空を確認する。



- ・今回の回収は農薬用プラボトル・アルミ袋・紙袋
- ・JA指定の回収袋に入れて、出す。
- ・プラボトルの洗浄、紙袋の残量を確認
- ・プラボトルと紙・アルミ袋は分別する
- ・プラボトルはふたをはずし、下向きに15本程度入れる
- ・回収袋はJA資材店舗窓口で販売中!! 一枚 100円



お問い合わせは：JA指導、購買窓口まで

熊本県・阿蘇郡全町村・JAグループ

JAグループは

皆様に安心をお届けします



最近、みなさんから無登録農薬について問い合わせが寄せられています。この度わかりやすくまとめてみましたので、ご一読ください。



<p>①</p> <p>「最近から無登録農薬の安全性について聞かれた人が多くなりました。」</p> <p>「まことに申し訳ない？」</p>	<p>②</p> <p>「一人ならそんな相談にも対応してくれる？」</p> <p>「一人が抱える農薬は安心！」</p>	<p>③</p> <p>「一人は国や人・環境・生物に対する安全性をきちんと評価した農薬をお届けしているから。」</p>
<p>④</p> <p>「どうして...今回販売したのは一人を殺傷しない何をも見えない農薬だったかな？」</p> <p>無登録品 除害剤</p>	<p>⑤</p> <p>「そりゃあ大変だ！それは国が厳密に評価していない無登録品じゃないかい！」</p>	<p>⑥</p> <p>「苦情には販売者ではなく、使用者の君に説明責任があるんだ。」</p>
<p>⑦</p> <p>「製造メーカーに聞いてもだめかい？」</p> <p>「よく見なす！農薬会社の責任者も書いてないのだから、連絡をとるんだい！」</p>	<p>⑧</p> <p>「登録のある商品と成分が同じだから安心です。」という説明は、どうなんだい？」</p> <p>「それではめんど。」</p>	<p>⑨</p> <p>「もし、その農薬が我々が育てた生産物の安全性にまで影響すれば、一人の産地としてのダメージは大変なだけではすみません。」</p>
<p>⑩</p> <p>「そりゃあ大変だ！一人に全く相談したほうが良さそうだね。」</p>	<p>⑪</p> <p>「このお話をよく聞かせる方になりました。国の義務があるからどうかくれぐれご留意ください。」</p>	<p>⑫</p> <p>「一人は国（農水省）がきちんと安全性を評価した農薬を適切な使い方とお届けしております。」</p> <p>JA 窓口</p>

私たちJAグループは 「無登録農薬」は扱いません!

- 1 私たちJAグループは、「新鮮」「安心」「安全」である農産物をお届けすることを使命とし、皆さまの「健康」がもっとも大切であると考えています。
- 2 また、人の命の糧をつくり出す農業は、人間にとってももっとも基本的な営みであるとともに気象条件の影響を直接受けるため、地球的環境問題を重視しなければなりません。
- 3 最近、ホームセンター等で販売されている**無登録農薬（輸入化学品）**は、農林水産省の登録を受けていませんので、土壌への影響や残留性・水質への影響など、登録手続きに伴うものは確認されていません。

以上の理由により、
私たちJAグループは無登録農薬（輸入化学品）は取り扱いいたしません。

 JAグループくまもと